

# 事後評価結果（平成20年度）

担当課：関東地方整備局道路部道路計画第一課  
 担当課長名：鈴木 通仁

事業名	国道6号 日立バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	自：茨城県日立市旭町 至：茨城県日立市田尻町	延長	4.7 km		

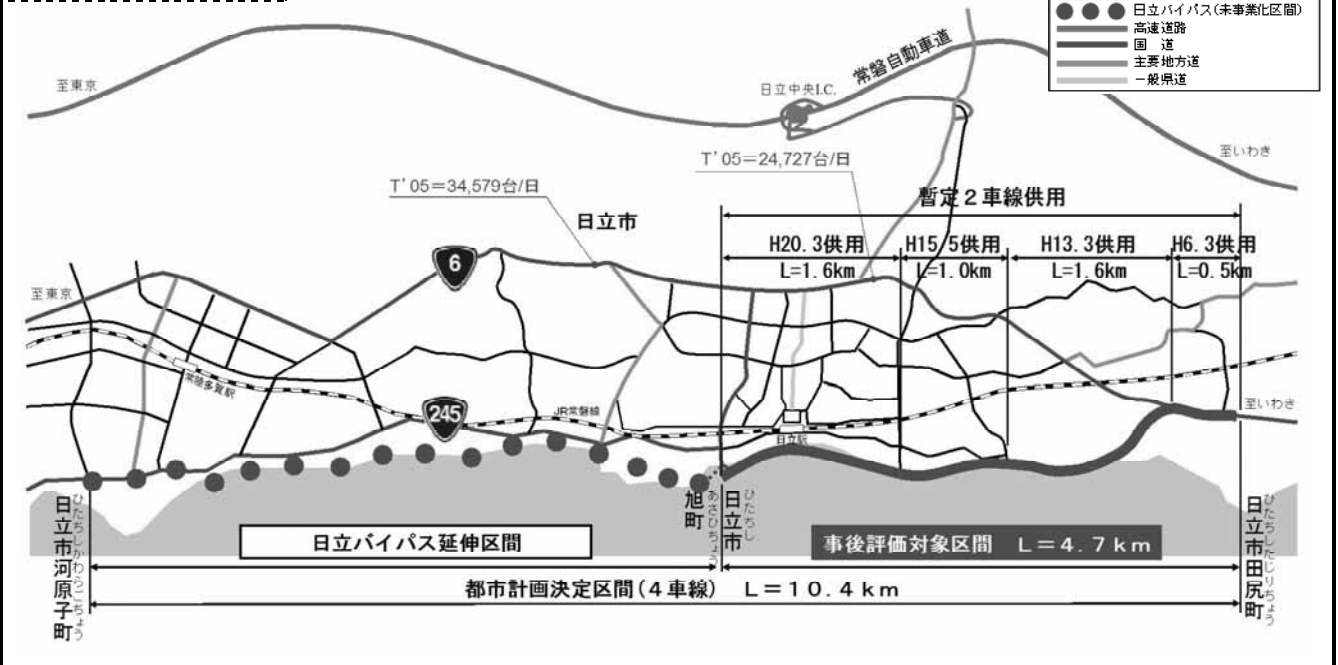
## 事業概要

国道6号は東京都中央区を起点として、水戸、日立等の主要都市を通過し仙台市に至る延長約370kmの主要幹線道路である。このうち日立市における国道6号は、地形的な制約もあり、通過交通のみならず生活道路としての機能も担っている。日立バイパスは、市外との交通と通過交通を担う役割を果たす道路として海岸部に計画された延長4.7kmのバイパス事業である。

## 事業の目的・必要性

日立バイパスは、日立市内の国道6号の交通混雑緩和および周辺生活道路の安全性向上などを目的としている。

## 事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度:S52年度 都市計画決定:S59年度	用地着手:S61年度 工事着手:H2年度	供用年 (当初)H19年度/ (暫定/完成)	変動	1.0倍	
	事業費	計画時 (名目値) (暫定/完成)	実績 (名目値) (暫定/完成)	(当初)4.11 / (実績)3.88 /	変動	0.8倍	
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	実績 (暫定/完成)	(H32) /31,500台/日	(H20) 18,200 /	変動	-42%
	旅行速度向上 (供用前現道 当該路線)	15.6	24.0km/h	交通事故減少 (供用前現道 供用後現道)	225	173件/億台キロ	
	費用対効果分析結果 (当初)	B/C: 2.1	総費用: 268億円 (事業費: 251億円 維持管理費: 17億円)	総便益: 550億円 (走行時間短縮便益: 481億円 走行経費減少便益: 55億円 交通事故減少便益: 14億円)	基準年	平成15年度	
費用対効果分析結果 (事後)	B/C: 1.3	総費用: 567億円 (事業費: 556億円 維持管理費: 11億円)	総便益: 722億円 (走行時間短縮便益: 611億円 走行経費減少便益: 62億円 交通事故減少便益: 49億円)	基準年	平成20年度		
事業遅延によるコスト増	費用増加額	- 億円		便益減少額	- 億円		

	事業遅延の理由 -----
	客観的評価指標に対応する事後評価項目 ----- 対象区間と並行する生活道路(4路線)の大型車交通量が減少(3,800台/日 2,100台/日)し、 生活道路の沿道環境が向上。 重要港湾日立港へのアクセス向上(日立市北部工業地帯(日高町)～日立港 66分 49分) ----- その他9項目に該当
	その他評価すべきと判断した項目 -----
事業 による 環境 変化	環境影響評価に対応する項目 -----
	その他評価すべきと判断した項目 -----
	事業を巡る社会経済情勢等の変化 -----
	今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性 ----- 渋滞緩和・安全性向上等の効果が発現されており、さらなる事業評価及び改善措置の必要はない。
	計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性 -----
	特記事項 ----- なし

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。